

はくさんさん

今どきお墓

第94号 H27年夏号

伊豆市 法住寺 発行

天城シャクナゲが咲きだした四月下旬、左足首をねんざしてしまった。病院に行く程のことでもないかとテーピングなどしていたが、なかなか厄介なものだった。殊に階段を下りる時に痛く、一段一段手すりにつかまりながらの日々だった。

*

山が盛り上がる若葉の季節、庭の手入れ、山仕事は尽きないが、思うように動けなく

悶々、それ

でもアザミやホタル袋などを残して草刈りなどしていた。六月も中旬になり足を保護するようにと十二枚コハゼの

地下足袋も新しく買ってボチボチ出はじめた。庭や山に出ればやりたい事が飛び込んでくる。春の境内作業でバツサリとせん定した第二墓地道路沿いのツツジがツルでがんじがらめになっていた。ツルの勢いはたいしたものだと感心したり、足を気にしたり、ゆっくりゆっくりと気持ちの良い汗を流した。

*

ツルをとりながら思った。

今、世の中では少子化、高齢化、過疎化と騒がれ、それに対応した地域づくりが必要であると叫ばれている。では私が今、実践できる地域づくりとは何かと問うたら、目の前のツツジのツルを取ることでと了解(りょうげ)した。

*

ちょうどねんざで思うように動けない時に、第一墓地の草刈りがあった。当日は法事があり終わったあとと見ると墓地左手の山の上まで刈ってくれてあった。足場の悪い急斜面の草刈り作業、しかも直接草刈りできる人は四、五人。きつとガンガン汗を流し、顔を真っ赤にして頑張ってくれたことだろう。ありがたく、うれしい気持ちで一杯になった。そして今その山に、やはり皆さんが植樹してくれたサルスベリ、ムクゲなどの樹木が

清々と枝を伸ばしている。

作業は本当に大変だったと思う、体は疲れたと思う、でもこうしてふる里を護り、近所の仲間と汗を流すことは何と気持ちの良いことか、清々することか。この汗は銭にはならない、しかし銭ではとても買うことが出来ない地域づくりと思うのだった。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

六月半ば、昨年亡くなった母の一周忌を営みました。この季節に毎年見事な菖蒲の花を届けて下さる方がいて、仏前にお供えすることができました。母らしく凜とした空気が漂いました。沙羅(夏椿)の花もお供えしました。朝咲いて夕方には散ってゆく一日花ではあるけれど、その真っ白い清楚な花も凜として慎ましく優しく母らしい花と思えます。

お墓の清掃に始まり、屋内、屋外の掃除、準備等と、当日まで仕事は色々ありましたが、そうした作務をする中で、私は自分なりに母を想い返し、母に想いを馳せることができました。

大きくなったお墓のサルスベリ



*

その日、一周忌を終えて夕方、住職と二人して「無事に終えてホッとしましたね」と言った瞬間、仏さまにお供えしてあった沙羅の白い花がはらりと目の前で散りました。この瞬間は亡くなった母と住職と私にしか解らない確かな「感応」だったと思えます。三人で共に過ごした晩年の空気がそこにあつて、亡き母と心を通わせることができたひと時だったような気がしてなりません。

*

当日、伊東修護持会長さまが「沙羅の花

かの眼差しを 思いけり」と一句詠んでくださり皆で感激した後のことだっただけに、ひとしお忘れ得ぬ出来事となりました。

歴代廟改修

お寺の歴代住職のお墓（歴代廟）を改修しました。第一墓地上段に、江戸時代からの住職、寺族の墓が四十余基ありました。昨年の梅雨明けの頃、二基の墓石が倒れ、他の墓石も土台が洗われてきていました。その現状を護持会役員さんにも見てもらい、思い切って

改修することにしまし

た。

墓地は十坪もあり、土葬でない時代にはこんなに広くなくて良いのですが、一般墓地として分譲しても使用の見通しがたたず、

周辺にあるお墓のことも考えました。また歴代人の隣には寺族の墓を建てました。

護持会役員さんの参列のもと抜魂、整地後に土地を清浄にする払いの経をあげ、五月二十日入魂式を執り行いました。

塔には「南無妙法蓮華経」のお題目、開山玄龍院日圓聖人直筆で、当山に伝わるお曼荼羅から写させて頂きました。このお曼荼羅には「永正四年十月十三日」の日付があり一五〇七年謹書されたもので、日蓮宗の宗宝になっています。五百数十年前から、歴代々三十人のご住職がこの「南無妙法蓮華経」を行おう、伝えよう、広めようと精進されてきたのです。

歴代廟からは遠く伊豆の山、達磨山が望め、この高台より四方に向かって高らかにお題目をお唱えになっている、そんな気持ちをもって建立した歴代廟であり法塔です。法華経には「将まさに 塔を立てて供養すべし」とあり、そうした想いを込めています。

なお塔には先代三十四世日雄上人の墓石を使いました。また歴代廟は山門を入れて右手に立派な墓石が約十基あり、今後とも大切にしていきたいと思えます。



入魂後、ご回向 手前は寺族墓



歴代廟法塔 お題目は開山聖人直筆

トピックス

「これはまるで樹木墓」

永代供養・寿量の塔の周辺にはサツキを植樹してあります。植樹から五年、花が良く咲くようになってきました。今までせん定したいと思っていたのですが、枝を広げ成長するのをジッと待っていました。そして今年ついにせん定、チョキリ、チョキリ、パチリ、パチリ、随分さっぱりしました。

糸を張って高さを揃えようと汗を流しました。が所詮素人、大浪小波と波打っています。それでも嬉しいのです、やっとせん定できたのです。汗を拭いて腰をおろしホッとして見上げると、

塔とその後ろの百年杉が凜としてそびえ、まるで兄弟のようです。刈ったばかりのサツキはザワザワと波打ち子どもたちがはしゃいでいるようです。これはまるで樹木墓だと思ったのです。寿量の塔は、お陰さまで多くの方々に信頼されご供養させて頂いています。

奉納額

新本堂建立からのご志納は奉納額に納めていますが、平成十六年からのものが一杯になりましたので増設いたしました。皆さんのご志納により境内が整備され良いお寺になってきました。今後とも宜しくお願い致します。

屋根修理

書院瓦屋根の四方流れが崩れてきました。書院は建ててから四十数年経っており、梅雨の前に八か所の四方流れを修理してもらいました。

おなじじょう

五月はじめのある日、



書院四方流れ瓦修理

仏さま、ご先祖さまにグリーンピースご飯のお供えあり、炊きたてなので直ぐに食べてとのこと。いただきま〜す。ヒョーっく！（感動）香りが豊かで何とも云えぬうまさ！優しく深い甘さ！豆ご飯ってこんなに美味しいんだ！おかずなしでお代りしました。ご飯をお代りするなんて何十年ぶりのように思えた。

戦後育ちの私にとつて、「豆ご飯は何よりのご馳走で、子どもの頃からワクワクして食べたきたが、こんなに美味しい豆ご飯は初めて。感動〜！。取りたての豆を直ぐに炊ってこんなに美味しいのか〜。

春には山菜おこわ、秋にはギンナンの炊き込みご飯、お彼岸の手作りおはぎ、田舎だからこそその豊かさ、幸せをしみじみ思った。



寿量の塔 周りのサツキをせん定



奉納額 足場を組んで取り付け

これからの予定

夏の境内整備

七月十九日(日) 元村一班

お盆のお施餓鬼

八月三日(月)午後三時

寺子屋

八月七、八日(金、土)

秋の境内整備

九月十三日(日) 西



洋明さんのおはなし

夏休みの寺子屋道場を初めて今年で十一年。

御志納金 「三月〜六月」

住職	瓜島 信行	歴代廟寺族墓建立	立砌
横浜市	山下泰弘、勝也殿	尊父葬儀	砌
西	森野智喜殿	愛妻葬儀	砌
函南町	三田恭司殿	尊祖母三七回忌	砌
清水	山下悦子殿	尊母七回忌	砌
清水	小塚 剛殿	歴代廟歩道改修	砌
伊豆市	鈴木尚平殿	愛妻納骨	砌
西伊豆町	古賀格夫殿	愛妻納骨	砌
伊豆市	坂本英司殿	尊父納骨	砌
長泉町	山本家殿	永代供養	砌
伊豆市	池田光江殿	夫君納骨	砌

毎年、必ず心に残る光景があります。それは夜、一時間お題目を一生懸命に唱え、仏さまに「合掌」をしている子供たちの姿です。その尊い姿に涙が出そうになり、言葉には出来ない程の感動を頂きます。

*

合掌は、皆さんがよく知っている仏教作法の一つです。何故か合掌されると、こちらも合掌してしまいます。実際に、お寺にいらした方に合掌して挨拶をしますと、大半の方が合掌をして下さいます。有難いことです。

合掌は相手に敬意や感謝を表し、相手を信じていることを表すときに使います。また、皆さんが持たれている仏さまの心に合掌をするのです。

本堂で合掌するのは、仏さま、諸天善神に敬意を表すだけでなく、感謝し、教えを守り、帰命する(仏様に命を捧げる)ことを表しています。

そしてもう一つ合掌には大きな意味があります。実は、右手は仏天、左手は私達を表しているのです。本堂、お仏壇、お墓のお詣りの際、右手と左手を合わせ合掌することは、仏さま、ご先祖さまが私達と一緒にいて下さり、いつも見守って下さっていることを表しています。私たちは、背中に目が付いていませんから、なかなか気が

が付きませんが、お釈迦さまも、日蓮聖人も、鬼子母尊神を初めとする諸天善神も私たちの後ろ姿を、親が子を優しく見守るように常に一緒にいて下さっています。ですから合掌は、本當に尊く有難い気持ちになります。

*

皆さんはお気付きですか？法住寺の本堂にも皆さんと同じように合掌されている尊いお姿の仏天がいらつしゃいます。鬼形鬼子母尊神です。その御前にお詣りし合掌しますと、鬼子母尊神も私たちに合掌をして下さいます。その合掌のお姿はとても力強く、時に厳しく、時に優しい眼差しで私たちを見守って下さっています。

鬼子母尊神の合掌は、お釈迦さまの教え「法華経」、そして「お題目」を信じ唱える皆さんを、鬼の力をもって守っていくことを誓って下さっているのです。合掌にて、いつも一緒にいて下さることを、私たちに教えて下さいます。

*

もうすぐお盆です。今年はお墓参りの前に、まず最初に本堂へお詣り下さい。ご先祖さまと皆さんを見守って下さっている仏天に合掌。それから位牌堂、お墓で、ご先祖さまに合掌。必ず皆さんの合掌にご先祖さまも合掌して下さい。皆さんと私たちはいつも一緒にです。有難うと。